

7月のことば

教育 ～ 「教え」① 掃除

夏^{きた}来る。自然に法則あり。天にルール有り。それに則^{のつと}れば福^{きた}来る。反すれば事故あり、難あり。

中庸^{ちゅうよう}という古典には、次なる事が書かれています。

・「誠は天の道なり。之を誠にするは、人の道なり。」

… 天（自然）は、その法則に従って正しく動いており、人も自己都合でなく天の道に沿って誠実に行動しなければならない。

・「天の命^{これ}ずる之^{せい}を性^いと謂い、性に牽^{したが}う之^{これ}を道と謂い、道を修むる之^{おしえ}を教^いと謂うなり。」

… 持って生まれた特性に従って歩んでいくのが「道」。道を修めるには道標^{みちしるべ}が先人の「教え」。

教育には「教え」と「学び」あり。「教え」は人としての基本、知識・技術の基本があり、前者を人間学、後者を時務学といいます。本来は人間学が本学、時務学は末学といわれています。

その、人を創るための「教え」の一番は掃除。赤ちゃんのおしめを取り替えてやることから、清潔を好む心を育みます。清潔への不感症は、生活・勉強・仕事に対し杜撰^{ずさん}となり、贈収賄など汚い事も平気でやるような人間の下地をつくります。一方、掃除は“素直な心”を育み、自分が他^{ほか}からお世話になっている事象を気付かせてくれます。

日本神道^{しんとう}の精神は、清く、明るく、直^{なお}き心^{みが}を研くことにあり、掃除に専念。又、仏教、禅宗などは掃除を修行の一番の基本としています。

よって当園でも室はきれいに掃除し、更に一輪の花でも飾る雰囲気を保ち、ご家庭でも、いつも清潔なる環境をつくっていただき、服装等も正し、教えの第一を踏まえたく思うのです。

次なる教えは「挨拶」、そして「脚下照顧」、「習慣化」「躑」「時務学の基本」と続きますが、来月から順次述べさせていただきます。